

特集 2 MASLD/MASHの疫学



お の まさふみ

小野 正文

横浜市立大学医学部 肝胆膵消化器病学教室

客員教授／

大阪大学大学院医学系研究科 招聘教授

要旨

脂肪性肝疾患 (SLD) は世界では成人の約40%が罹患しており, 我が国においても約30%が罹患している慢性進行性の肝疾患である. その中でも代謝機能障害に伴う代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD) の有病率は, 世界では成人の30~35%程度, 我が国でも20~25%程度と報告されており, 世界的な肥満人口のさらなる増加に伴い, 今後も患者数が増加すると予想されている. これまで, 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) と呼ばれていたSLDの多くがMASLDに相当することが報告されており, 今後は代謝機能障害に関連するSLDの頻度や特徴などの臨床像がより明らかになると思われる.

キーワード

脂肪性肝疾患 (SLD), 代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD), 代謝機能障害関連脂肪肝炎 (MASH), 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD), 代謝機能障害アルコール関連肝疾患 (MetALD)